

誰が景観を創るのか？

第11回

JCCA×JIA 協働シンポジウム

「多様性と融合」

基調講演

「これからの農村のあり方」 ～環境・土木・建築・農業・観光～

東京工業大学准教授、前徳島大学助教

真田 純子

司会進行

亀井 尚志

JIA都市・まちづくり委員会

建設コンサルタンツ協会美しい国づくり専門委員会と日本建築家協会都市・まちづくり委員会は、これまで土木実務者と建築実務者の交流の場として、「誰が景観を創るのか」をテーマに、協働でシンポジウムを計 10 回開催してきました。

平成 28 年 9 月には、「美しい国づくりをみんなの力で」と題して両協会会長による 3 回目の対談が行われ、2020 年の東京五輪を契機に、改めて土木と建築が手を携えて進めよう、と議論がなされました。対談では、2020 年の東京五輪を前に、1964 年における土木や建築のあり方の違いに触れ、社会の価値観が多様になり、また地方創生やまちづくりでの領域を超えた土木と建築の協働の必要性について確認されました。今こそ協働を深める時期であり、建設設計及びまちづくりにおいて両協会が本気で融合を図るためのスタートを切ることを約束いたしました。また、それらの融合には、若い世代の交流や、業界の魅力づくりが重要である、との認識を共有しました。

これをうけて、今後の第 10 回から 12 回を一区切りとして、「多様性と融合」を新たなテーマに協働シンポジウムを開催しています。

平成 29 年 9 月 28 日 (木) 11:00～12:30
あわぎんホール 5 階小ホール

JIA建築家大会2017徳島のプログラムとして開催
<https://jia-tokushima.com/>
他のプログラムにも興味のある方は、大会参加登録をお願いします。

参加者：建設コンサルタンツ協会会員、JIA 会員、一般市民、学生等

募集人数：120 人程度

参加費：無料

問合せ・申込：一般社団法人建設コンサルタンツ協会 美しい国づくり専門委員会 / akiyama-tm@oriconsul.com

主催：一般社団法人建設コンサルタンツ協会(JCCA) / 公益社団法人日本建築家協会(JIA)

* 建設コンサルタンツ協会CPDプログラム / 日本建築家協会CPDプログラム

「多様性と融合」をテーマとした最初となる第 10 回は、土木出身ながら建築の世界で独立し、現在は、都市再生戦略の立案からはじまり、建築・リノベーション・土木分野の企画・設計に加えて、まちづくりのディレクションからコワーキングスペースの運営までを意欲的に実践する西村浩氏を迎え、これからのまちづくりのあり方に向けた基調講演をいただきました。これからは、縮退していく都市を支えるための公共空間ってどうあるべきか考えないといけない。有り余る公共的な空間や空き地問題などをどういう風にマネジメントしていくか。成功するかどうかはわからないので 100 億円使うのではなく、小さな投資で、成功するモデルや方法を積みかたえて、新しい地方都市ならではのそれぞれに合った新しい再生モデルをつくる。それがこれからの我々の仕事とお話しいただきました。

これをうけて、第 11 回では、協働シンポジウムの初の地方開催として、2015 年まで徳島大学で一次産業のつくる風景を継承していくため地場産業の活性化や石積み技術の継承などの活動に取り組んでいた東京工業大学准教授の真田純子氏に「「これからの農村のあり方」～環境・土木・建築・農業・観光～」と題して基調講演をいただきます。欧州を中心とした世界の農村のあり方の潮流をご紹介いただくとともに、徳島において地域の方とともに続けられている、地域の個性としての持続可能な環境づくりとそれを通した農産物の価値づくり、土木・建築のサステナブルな技術の展開、農村の暮らしそのものを資源とした観光などの話題をご紹介いただきます。

keynote speech



真田 純子 東京工業大学・准教授

専門は景観工学。1930年代の東京を中心とした緑地計画史で博士論文を書き、資料に埋もれる研究者になるつもりが、2007年に徳島大学に着任後、農村風景にめざめ2009年に石積み修行を開始。2013年には石積み学校を立ち上げる。石積み学校でグッドデザイン賞地域づくりデザイン賞受賞(2014)、グリーンレジリエンス大賞最優秀賞(2017)。その他、農村景観を仕組みとして保全するため「風景をつくるごはん」プロジェクト主宰。

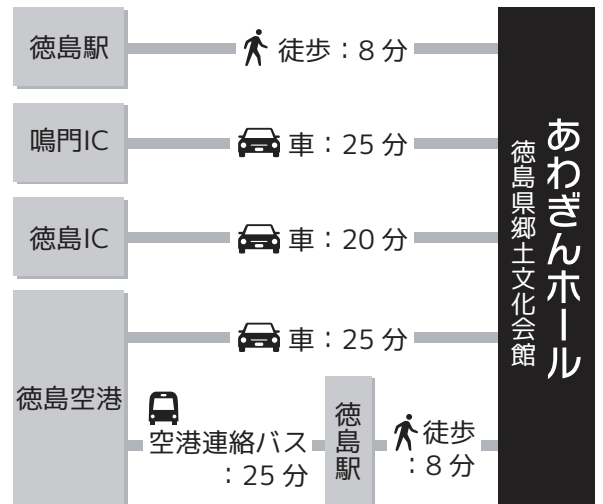
著書：「都市の緑はどうあるべきか」技法堂出版、「ようこそボク学科へ！」学芸出版社（編著）



map



access



基調講演後、司会を交えてディスカッションを行い、より深く理解する時間も予定しておりますので、両協会の会員にのみならず、様々な分野の方や学生、一般市民の方にもご参加いただき、広く議論していきたいと考えています。